



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
総合病院 聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
編集者 横地健治

2017年11月1日

「優生思想」

横地健治

平成28年7月26日に、神奈川県で19名の障害者が殺害される事件がありました。1年経っても、この事件は施設関係者に重い問題を投げかけ続けています。それは、犯人の優生思想です。優生思想は、障害者の人権に反するものとして、すでに過去のものだと思っていた、いや、思おうとしていたが、現在もなお生き続けていることをこの事件は明らかにしました。

それでは、優生思想とは何でしょう。秀でた能力を持つ遺伝子を保護し、逆に能力の劣った遺伝子は排除し、優秀な人類を後生に残そうというものなのです。なお、今の遺伝学ではこうした考え方は否定され、遺伝子の多様性が進化の源とされています。それでも、この思想は障害者を社会から排除する行為に結びつくものでした。その最たるものが、ナチスの知的障害者の大量虐殺です。これは1930年代に起こったことであり、まだ100年経っていない近年のことです。日本でも、優生保護法(1948年成立)が廃止されたのは1996年とま

だ最近のことです。

障害者は生きるに値しないのちであるというのが犯人の思いです。これをさらに進め、抹殺すべきであるとして、それを実践しました。実践して刑法を犯したので、悪行として罰せられます。しかし、密かにそう思っているだけの人はいるかもしれない、また、人々の本音はどうなのだろう、とこの事件を機に考えさせられました。

誰でも障害者になる可能性はあるので、障害者も健常者と同等なのちの価値があるとする考え方があります。また、誰でも幼小な時と高齢になった時には介護を要するので、すべての人は介護を要する人も健常者と同等なのちの価値があるとする考え方もあります。こうした考え方は、健常者が自分の利益となるからという理由を挙げているだけですが。生まれつき重度な障害を有し一生を終える人のいのちの価値については何も応えてはいません。

のちが優先されるという人は多いでしょう。障害者は健常者の支えがなければ生きていけないからです。言い換えれば、健常者は障害者の生存のための負担を負っており、その能力には限りがあるということなのです。こうしてみると、障害者の人権、個の尊厳は護るべきものとして、社会で受け入れられている内容はかなり曖昧なものだということになります。

このことについて、私は次のように考えています。助けが必要な人をみたら助けねばならないという思いを人は根源的に持っている、そして、その延長上に、障害者にも個の尊厳があるとの思いを人は自然に持つようになると考えています。私自身、障害者も人権・尊厳を持っているという感覚は、教育されて得たというより根源的な感覚と捉えます。「良心」は人が生まれつき持っている素質の育ったものだと私は思います。障害者の人権・尊厳の思いもこの良心の中にあるものだと考えます。ただし、良心のない人もいますが、これは素質が育つ環境がなかったためだと思います。

として生を受けます。そのため、人は、その集団の他者に親切にしたい、その他者から好意を持たれたと思う心は生まれつき持っていると考えます。この心があれば、個人は社会の中で過ごしやすくなり、社会も安定するからです。人は進化の過程でこれを獲得したのではないのでしょうか。

つまり、障害者の人権を護る、個の尊厳を護るといふ思いは、人は生まれつき持つっており、その思いを実践すれば、その人の心も満たされ、その実践の広がりはその社会を発展させるというものである。ただし、こうした感覚は揺らぎやすいものであり、環境との関係で消え入るかもしれません(その最悪な結果が神奈川の事件です)。それを防ぐために、人の道・倫理・道徳といった行動規範、あるいは、宗教上の教義があるのではないのでしょうか。

私たちは、重症心身障害者の個の尊厳を護り、質の高い生活を提供することを職業としています。一般の人たちより高いレベルでこの根源的な信条を持つことを求められています。私たちは、重症心身障害児者と関わる過程でその人の心を深く知ることになります。そうすれば、その人